



2012/13 Weekly Bulletin

国際ロータリー第 2790 地区第 3 分地区 B

市原ロータリークラブ会報



事務局
市原市五井 5584-1
TEL:0438-38-3535

第 2364 回例会
2012 年 7 月 18 日 (水)

SAA/小池会員
会報担当平野会員

例会場
五井グランドホテル

- ★点鐘 市原 RC 会長 小川長二
- ★ソング 手に手をつないで
- ★プログラム 卓話
- ★お客様 千葉南 RC 幹事 杉本峰康様

Peace Through Service

市原ロータリー・クラブ卓話 齊藤 博

新会員の為のマニュアルは、数多く出ておりますが、私はかねてからそれとは違った視点からロータリーを説くもの、例えばイソップ物語の寓話からロータリーの思想や組織を考えるものは出来ないかなーと考えておりました。その試みでこれからお話し申し上げる訳ですが、新会員の皆様が少しでもロータリアンとしての素養を身につけられ、ロータリーが少しでも高まることを祈るものでございます。



齊藤 博 パストガバナー

第一話

郊外からパリイに向かつて、一台の馬車が走って来ました。村の辻に二人の少年が立って手を挙げました。

「小父さん、パリイへ行くの」「そうだよ」「弟を乗せてやって」「いいよ」。

馬車はまた、砂ぼこりを挙げながら走って行きます。暫くして乗客が馬車の後ろを見ますと、砂埃の中を先ほどの少年が、真っ赤な顔をして歯を食いしばり、懸命に走って来ているのを見ました。「みんなさっきの少年だよ、お前の兄さんだろう。何処まで走って行くんだ」「うん、パリイまでだよ」。パリイ迄はまだ 4 キロもあるでしょう。乗客は不審に思って、なぜ乗らないのかと尋ねました。「お父さんが死んだから、金が無いんだ。お前は小さいから馬車に乗れ、兄ちゃんは強いから、走ってついて行くんだ」。乗客は顔を見合わせました。「何しに行くんだい」「お母さんに会いに行くんだ」「お母さんはパリイにいるの」うん皿洗いをしているんだ

乗客はお互いに顔を見合わせながら、誰言うとなしに、帽子を回してお金を集めました。

「オーイ、馬車を止めてくれ」。ギーッと音を立てて馬車は止まりました。「可哀想な子供だよ。お父さんを亡くしてお母さんに会いにパリイに行くんだ。乗せてやってくれ」。

馭者の小父さんは後ろを振り返って「そうだと分かっているや、早く乗せてやったのに」と、にっこり笑って少年を乗せました。

乗客がお金を渡そうとすると、馭者は「いや、その金は貰えないよ。子供たちにやっどくれ」

乗客はみんなにっこり笑って頷いて、少年に渡しました。「小父さん小母さん、有り難う」。馬車は何事もなかったように、パリイへ、パリイへと走って行きました。

(旧小学校読本)

兄も、乗客も、馭者も、全て素朴な善意の人、此の素朴な善意が、ロータリーの奉仕の出発点であります。

第二話

昔、中国で二人の国王が出会った時、それぞれ、自分の国の自慢をしました。

一人の国王が、私の国には“径寸十枚”即ち直径一寸もある大きな宝玉が十個有る。

これが私の国の宝ですと自慢した。

ところが一方の国王は、私の国にはそんな宝玉はないけれど「一隅を照らしている人間」が沢山居る。それが私の宝です」・・・と答えたと言うのです。

「一隅を照らす人」というのは、譬えどんな田舎でも。又どんなつまらない小さな職業でもいい。人は知らなくとも、人から認められもせず従って称賛もされなくとも、黙々として自分の職域に自分の使命に邁進している人のことでもあります。

一隅を照らす人が多ければ多いほど、その地域も国も立派になり、住み良くなるのであります。それは一本の蠟燭の灯は小さくとも、その火は近づく沢山の人の心の蠟燭に、火を灯すことができる。そして千本万本の心の蠟燭に火がともるとき、その光は村を照らし国を照らすから、と言うのであります。 無尽灯(岩切章太郎)

ロータリーは、個人奉仕の絶対性を説いております(決議 23-34 号)

第三話

有る男と少年の話ですが、男は一日の研究が終わると、夕方散歩に出ることにしていた。或る日、町外れで貧しい可哀想な足の不自由な少年に出会った。彼は可哀想に・・・と言って、持ち合わせの小銭と菓子を与えた。「有り難う御座います」少年はそう言って頭を下げた。彼は良い事をしたと大変愉快でした。

しかし幾度か繰り返されるうちに、始めは、はにかみながらお辞儀をしていた少年も、何時しか自分を見つけると遠くから不自由な足を急がせて飛んで来るようになった。「おおどうだい、元気か、可愛い子だ。さあ今日はこれをあげよう」と彼はこの少年と会うのが、散歩の一つの楽しみでした。処がある日のこと、少年の頭を撫でながら考えた。「可哀想な子ではある。しかしこれまで、有り難うと言ってお金を貰っていたこの少年が、近頃当たり前だという気持ちで貰うようになった。

少年は可愛い。しかし本当に可愛いならば、この少年の前途を思ってやらねばならない。この環境に甘えて、独立と言うことを考えなくなったら、私はこの少年の前途を誤ることになる。しっかり抱いていた少年を、彼は突き放した。「偉くなるんだぞ」と一言い残して彼は家に帰り、その後その少年と、二度と会うことは無かったと言います。(1977-8 大村北クラブ卓話佐古亮尊)

ロータリーも決議 23-34 号第四項において、ロータリー・クラブは継続事業はしないことが望ましい、と記しております。

第四話

何年も前、スイス南部のある富裕な男爵の婦人が亡くなった時のこと、男爵は婦人を記念する為、小さな教会を建てることにしました。間もなくその村を見下ろすアルプスの麓に、石造りの美しい小さな教会が建立されました。しかし男爵は、この教会に照明の設備をしなかったことに気付いたので。みんな困ってしまい、沈黙していた。やがて村人が「一人進み出て、「その照明を寄付したい」と申し出ました。しかし男爵はこれを辞退し、次のように申しました。

「この教会に、皆さん方の各家族の専用席を割り当て、めいめいにランプを差上げます。教会の鐘が“夕べの祈り”を告げて鳴り出したら、皆さんはそのランプに灯を灯して礼拝に来て下さい。そうすれば教会堂は、隅々まで明るくなるでしょう。

この話は何年も前のことで、既にその男爵もずっと前に亡くなっています。しかし今日もなお、毎晩この教会堂の鐘が鳴り終わる頃には、各家庭の代表がその専用席に着いて、あのランプが教会堂を明るく照らしているとのことです。

私たち銘々は、ロータリーに入会したとき、その事業を象徴するランプを手渡されたことになるのであります。ロータリーは毎週休む事なく会合しております。従って会員が例会に規則正しく出席すればするほど、そしてまた各自のクラブのプログラムに、熱心に参加すればするほど、クラブ、及びその地域社会は、明るく照らし出されることになるというのであります。(ロータリー創立六十年記念西日本連合地区大会メッセージ)

第五話

あるスイスの田舎で、おばあさんがザルの中に羊の毛をいれて、きれいな谷の水に打たせておりました。そこへ牧師さんが通りかかりました。

「おばあさん、あなたは日曜毎に教会へ来て、私の説教を聞いておられる。さだめしええ話を、たくさん覚えてたろう」と聞きました。おばあさんは「ところが牧師さん、もう年だもの、覚えるそばから、みな忘れてしまいます」。牧師は「折角覚えていい話を、忘れてしまうたら困るじゃないか」。おばあさんは「でも牧師さん、この羊の毛を見て下さい。ザルの日からは水はどンドン逃げて行きます。逃げて行きますけれども、ご覧下さい。羊の毛はこんなに奇麗になっております。」こう返事したという事です。

ロータリーの理想は高く理念は崇高なものでございます。我々は何時も教えられますけれども、聞かされるそばからみな忘れてしまいます。しかし、たとえ水が流れてしまいまし

でも、必要なことは、このロータリーと言う水の中に、自らの身体を待（は）はべることであって、常にその中に、自分が“浸る”ことであります。ロータリーそのものになりきる事であるとするならば、やがては自分の身体も清らかになる。それがやがて周囲を明るくし、ひいては世界の平和に通ずる道ではなかろうかと存じます。（斉木亀治郎）

第六話 たて糸とよこ糸

地域にロータリー・クラブが出来た意義を考えて見ますと、ロータリーの願っていることは、「豊かな人間関係によって、より良い社会を創ること」であります。ここでいう豊かな人間関係とは「縦のつながり」と共に、「横のつながり」が緊密に組み合っているという意味であります。

縦の人間関係とは、生活に直結したつながり合いです。大企業と下請け業者、幹部と平社員、官僚と人民、先輩後輩、親分と子分といった間柄であります。これらは競争社会に生き残るために大切なことでもあります。

しかしこの縦の関係にのみ汲々としておきますと、業者は過当競争に陥って苦しみ、汚職のために政治は腐乱し、青年は社会に不信を抱き不安に襲われて、非行化し、暴力化してまいります。ここで所謂、人間疎外に走り、ついには「人を見たら泥棒と思え」と言った相互不審に陥って、生きながらの地獄を見るようになって参るのであります。

では、横の人間関係とは、「人間兄弟」と言う観念であり、所謂「仲間意識」であります。人間は、人それぞれの喜びと悲しみがあります。その喜びは共に喜ぶことによって倍加し、悲しみはこれを分け合うことによって薄らぎます。

同じこの世に生を受けたものは、互いに相手の身になって考える。即ち「思いやりの気持ち」があつてこそ、この世は平和な楽園になります。この思いやりの精神を、私は「慈悲」と言い、キリストは「愛」と呼び、孔子は「仁」と唱えました。ロータリーではこれを「奉仕の理想と申します。」

私は人間関係を織物の経糸と緯糸に譬えることが出来ると思います。たて糸に、よこ糸を織り込んだとき、はじめて「布」となって人の身体を暖かく包み、また美しい色彩や模様を織りなして、生活を楽しくいたします。

そして糸の性質と織り込み方によって、涼しい「絹」にもなり、暖かい「冬物」にもなります。又清潔な白布にもなり、豪華な金襴にもなるのであります。（前原勝樹）

第七話 惜別

明治三十六年、仙台医学校に入学して来た中国の一青年顔がありました。中国の復興には、国民の健康改善が第一、そして富国への情熱に燃えての日本留学でした。

言葉、日常生活の府住、寂しさも忘れて熱心に勉強しました。入学して半月くらいした土曜日の放課後、解剖の藤野藤九郎教授の研究室に呼ばれました

「私の講義が筆記出来るかね」「はい、一生懸命とつてます」

「ノートを見せたまえ」「・・・」「此のノートを月曜日まで借りるよ」。月曜日に返されたノートを見て彼はびっくりした。初めから終わりまで、いっぱい赤鉛筆で書き加えられていた。細かく、親切に加筆されていたのです。先生は「折角の私の講義が理解して貰えないのは残念だ。今後毎週一回ノートを提出するよーに・・・」

青年は感激して涙しました。多忙な教授の行為が、身に染みて有り難かった。このノートの提出は、最後まで続けられました

彼が二年のとき、日露戦争が始まりました。此のころから彼の考えは変わって来ました。中国国民の健康も急務だが、中国人の精神の改造が急務と感じた。肉体の医学から経済思想の問題へ、文学を通じて精神運動、思想運動をやろうと決心した。

藤野教授に帰国の挨拶に行くと、先生は彼の手を握って「日中両国が相和することこそ、お互いの繁栄の元である」と激励された。先生は自らペンを取ると、自分の写真の裏に「惜別」と書いて青年に渡した。此の青年こそ、後に世界的文豪と言われた「魯迅」その人でした。

彼は藤野先生に直して頂いたノートと此の写真を、生涯その書棚に飾り、先生の御恩に感謝し、壊かしんだと言います。

魯迅は懐旧の情を込めて「藤野先生」と題する一文を発表し、思慕の情をのべております。藤野教授が教師として、彼の身になって考えてやったその心使いが、民俗の違いも国の隔たりさえも埋め尽くしたのでした。

藤野教授の、自分の職業の徹した奉仕の心が、国際奉仕に実を結んだのでした。

(1983年10月大村北クラブ佐古亮尊)

ロータリーの国際奉仕は、個人と個人の善意をつないで行くことによって、国際間の理解と親善を実現しようとするものであります。

第八話 光明皇后

聖武天皇の后光明皇后は、非常に信心深い、奉仕の心の強い人でした。皇后は悲田院を建てて孤児を収容し、手厚い保護を加えた。病人の為には、施薬院を各寺院に設けて、施療に当たらしめました。聖武天皇と光明皇后は、天平十五年から十年近くの歳月を費やして、奈良に東大寺を建立しましたが、その完成の時だそうです。

「后よ、老若男女、貴賤を問わず、全ての人を洗い清めよ。されば仏益はますます現れるであろう」。天からの声に皇后は、早速風呂場を作り、乞食千体の体を、自ら洗い清めようとの願いをたてられた。ちょうど最後の千人目に来た時、さすがの皇后も驚いた。人の忌み嫌う「癩病患者」で体はすっかり崩れ、膿が吹き出した足を杖にすがって、やっと歩いて来たのであった。

「皇后様、私の病気は誰かに膿を吸い取って頂ければ直るのだそうでございます。お慈悲ですから、私の願いをかなえて下さいませ」

皇后は、黙ってその傷口に唇を当てた。

その瞬間である。乞食の身体は光り輝き、仏の姿に変わった。(小原因芳説教集)

これがロータリー思想、の“自己滅却の奉仕”の世界であろうと存じます。

第九話 タイタニック号の船長

四万五千トンのタイタニック号がサザムプトンを出港して、ニューヨークへの処女航海にのぼったのは、1912年4月10日の朝でした。ところが北大西洋の真中で、氷山に衝突し、沈没しました。

付近を航海していたカルパチャ号は、無電によって直ちに救助に向かった。しかし現場に着いたのは六時間後でした。二千人からの船客は、沈没の猛烈な水圧のため押し潰され、幸い浮かび上がった者も、海水が冷たかったため、凍死してしまつたらしかった。

カルパチャ号では、全力を挙げて生き残っていた遭難者を救助した。浮標を身につけた赤ん坊を抱いていた老人が、声高く「ここだここだ」と叫んでいた。

救助艇が近付くと、老人は赤ん坊を高く差し上げた。船員は赤ん坊を抱き取って、次にその老人を救いあげようとするが彼は首を振った。そして浮標を自分の体から解き放すと「私はタイタニックの船長だ。たくさんの人々を死なしておいて、私一人、助かる訳には行かぬ。どうか、私の代わりに、多の人を助けて下さい・・・」

と叫びながら、見る見るうちに、海の中に姿を没してしまつた。

まさに Service,Not Self 自己犠牲の奉仕であります。(小原因芳説教集)

第十話

小川正子は、昭和四年東京女子医専を終えると、すぐ全生病院に光田園長を訪ねました。「私は先生のお仕事を尊敬しております。どうか病院で働かして下さい」

「小川さん、癒病の患者さんの治療は、感傷や理想、だけでは出来ません。愛の心と冷徹な科学の力を必要とするのです。本当にあなたが癩者の友となろうとなさるなら、もっと科学者として、医者として修業してからに下さい。」

正子は黙々と三年間修行し、昭和七年瀬戸内海の小島、長島愛生園の野島愛生園の再度光田園長を訪ね、喜んで迎えられた。

病者の中には、自分の食べかけの菓子を突き付け「本当に俺たちのことを思っているなら、これを食べてくれ」などと、嫌がらせをする者もいたが、彼女は此の病気のもつ半ば宿命的な業の深さに、憐れみと同情を寄せるのでした。

二年目に癩者収容の検討出張を園長から命じられました。癩者を救い、伝染病の此の忌むべき病を社会から根絶しようとの情熱に支えられての苦しい旅でした。

「先生様、此のままここで死なせてくらっせよ」と哀願する老婆や。

「おらの兄様はおらが見る」と家族総出で収容されまいとする家もあった。

冷徹な医者であろうとする正子も、ともすれば感傷に引き入れられそうになった。「癩と言う不幸を、この世からなくする為には感傷に負けてはいけない」

収容した患者を愛生園まで運ぶのも大変な苦勞でした。トラックに乗せ起居を共のする旅は、気高き精神の持ち主にして始めて可能かであった。こうした何回かの旅と、園にあつての献身的努力は、何時しか体力の限界を超えていた。

微熱と疲労、それが胸を冒しつつある病魔の故であると医師である彼女は知っていたが、決して休もうとはしなかった。彼女の身体を心配した光田園長が、静養を命じた時はもう遅かった。郷里山梨県に帰った小川正子は再び起つ事なく、昭和十八年四月、四十二年の尊くも短い生涯を終わった。（「癒病に捧げた一生」より）

まさに Service, Not Self 自己否定の奉仕であります。

ロータリーの奉仕の心は、全ての人達の幸せを祈る心であります。

ロータリアンは例会に出席するのが目的ではなく、例会に出席する事によって、ロータリーのルールを学び、そしてロータリーの心を知る。これがロータリアンとしての第一歩であろうかと存じます。

以上 ロータリー百話

辻忠夫編より引用

会長挨拶

こんにちは。梅雨も明けましてこれから夏本番でしょうか。

夏の暑さに負けず日々頑張っていこうと思う今日です。

早速ですが

先日、東北で全国大会がありました。昨年の大地震の影響を大きく受けた地域で開催されまして、県知事をはじめ多くの来賓の方からお話を伺うことができました。

その多くはやはり震災の復旧、復興に関するものでした。

被災した建物を解体することは出来ても処分が大変な状況であるということで、被災地を見学してきたのですが、被災地には想像を遙かに超える量のゴミが残されていて、私自身も胸を痛める情景でした。

福島においては、原発が原因となり処分に非常に困難しているといった状況でした。

さて、このような被災地の問題に対して私たちはどのような取り組みができるでしょうか。

ロータリークラブの会員の皆様には様々な業種において活躍されている方が多くいらっしゃいます。多方面からのご意見、ご協力を頂ければ少しでも被災地復興のお手伝いができるものと思っております。

私も、まさに職業奉仕の大切さを痛感した今回の大会を通じまして、より一層ロータリアンとしての自覚も見直されました。

皆様より、少しでも多くのご意見を頂き、活動に繋げていきたいと思っております。

ロータリークラブ一丸となって奉仕活動ができるよう、益々のご協力をよろしくお願いいたします。



会長 小川長二

●新入会員

岡田会員

国井会員



山崎会員・国井新入会員



小川会長・岡田新入会員

●親睦活動委員会報告

箕輪委員長



箕輪親睦活動委員長



小川会長・国井新入会員

🍷ニコニコ・ソーラー🍷

○例会運営委員会 山崎会員・川島会員

齊藤 PG 過去最高の卓話で感動しました。有難うございました。

○赤星会員

大変大変欠席の不良会員でお世話になるばかりです。

職業奉仕とて、町工場のオヤジ右往左往しております。梅雨明け、夏本番お見舞い申し上げます。

○小川会長・長田幹事

千葉南 RC 杉本幹事、本日は暑い中有難うございました。

齊藤 PG ととてもためになる話有難うございました。精進します。

- 大賀蓮・おおがはす -



前々回出席率 76.74%

本日出席 34 名

本日欠席 9 名

本日出席率 79.07%